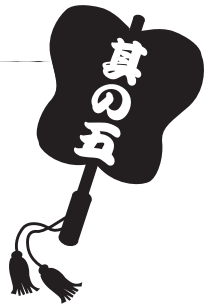




1月8日(日)スタート <初回15分拡大版>

毎週日曜 NHK[総合] 20:00 [BSプレミアム・BS4K] 18:00



しんしろ一家康祭り

新城と徳川家康と言えば、長篠城や設楽原が思い浮かびます。でも実はそれだけではないのです。新城には徳川家康にゆかりの地が意外とたくさんあります。「しんしろ家康紀行」では、家康ゆかりの地を紹介していきます。身近な存在としてNHK大河ドラマ「どうする家康」をお楽しみください。これまでの記事は市ホームページでも読むことができます。

家康、苦渋の決断

旗頭山

ID 559663919

問合せ 設楽原歴史資料館

(TEL 22・0673)

三方原の戦いで武田軍に大敗したばかりの家康。野田城からの使者から戦いの様子を知らされましたが、全く妙案はありませんでした。

信頼する定盈を見捨てることはできませんし、野田城が武田方に奪われたら、次は東三河の中核である吉田城です。いや、吉田城を攻めずに一気に岡崎城を攻めてくるかもしれません。信長からの援軍が来ないという連絡も来しました。絶体絶命のピンチでした。

家康は家臣を集め、軍議を開きます。ここまで来た方がいいが、どのようすべきかと。重臣の一人である酒井忠次が「武田軍は我が軍の数倍であり、戦えば勝利は覚束ない。織田軍の援軍も見込めない。ひとまずは引き上げるべきである」と進言。

家康は苦渋の決断をせざるを得ませんでした。野田城を救うことはできないと……。

プロデューサーからひと言・・・

「どうする家康」ってどんな話？

チーフプロデューサー 磯 智明さん

大河ドラマでは何度も取り上げられてきた「徳川家康」。天下統一をした優秀な人物として描かれることが多かったのですが、今回の脚本家の古沢良太さんが描く家康像はこれまでと違い非常にユニークです。

今回の大河ドラマでは、才能豊かで完璧な人間ではない家康が描かれます。そんな家康に毎回ピンチが訪れ「どうする」が連続します。運や巡り合わせの偶然が重なって天下人まで登り詰める姿は、今まさに求められるヒーロー像であり、現代を生きる皆さんにも共感をしてもらえると思います。

見どころは？

チーフプロデューサー 村山 峻平さん

「どうする家康」の撮影にはバーチャルプロダクションという最新技術を使います。ロケは天候などで撮影ができなかったり、そもそも戦国時代の戦を再現できるような場所がなかったりします。そこで今回は、スタジオのセットの後ろに背景映像をLEDディスプレイに映し出し、実際の被写体と同時に撮影します。

愛知県内の風景や建物などを、最新技術を用いて映像化しているのでお楽しみに。



▲村山 峻平さん(左)、磯 智明さん(右)



▲旗頭山から野田城を臨む

旗頭山から少しずつ遠ざかる金の扇の馬標。野田城からその様子を見ていた兵たちは力を落とすつつも、城を枕に討ち死にする決意を固めたともいわれています。

戦いの終結へ

野田城を巡る攻防は日に日に激しさを増していききました。そんな中で信玄砲の伝説が生まれたりもしました。戦いをどのように終えるか。城内でも武田軍内でも軍議が開かれました。武田軍から矢文が城内に射込まれました。そこには「城主定盈が人質として城から出てこい。そうすれば、兵はみな助ける」と書いてありました。定盈は兵を助けるために人質となるこ

とを承諾し、わずかな家臣を連れて城から出てきました。後に定盈は徳川方にいた武田軍の人質と交換され、再び家康の家臣として活躍することとなりました。

家康は野田城を救援しようと、旗頭山にやってきただけでしたが、この動きは家臣を見捨てないという家康の心情によるものでした。結果的には野田城を救うことはできませんでしたが、こうした行動によって家臣を大切にす家康像が形作られていき、家康を中心とした強固な徳川家臣団が築かれていきました。



▲旗頭山地区